



佐田中学校からベンチを贈呈いただきました

総務課

この度、出雲市佐田町の出雲市立佐田中学校からベンチ3台を贈呈いただきました。3年生17名による手作りのベンチで、木のぬくもりとともに生徒さんたちのあたたかい気持ちが伝わってきます。

佐田中学校では、緑の少年団活動として、平成11年から3年生がスギ間伐材を利用したベンチの製作をしておられます。例年は、贈呈先を公募されるそうですが、今回は「医療従事者へ感謝の気持ちを伝えたい」という生徒さんたちの強い希望のもと、佐田中学校からご提案くださり、寄贈いただくこととなりました。



目録を受け取る渡部総務課長

2021年2月8日に行われた贈呈式では、代表の生徒さんが「日々の『当たり前』はみなさんのおかげです。」と、医療従事者に対する感謝の気持ちを述べられました。

いただいたベンチは院内に設置します。当院にお越しの際は、ぜひご利用ください。
佐田中学校の教職員及び生徒の皆様、職員一同、心より感謝申し上げます。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

3月15日～4月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
3/15(月) 9:30～11:30	2020年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来・中央診療棟3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	島根大学医学部附属病院 がん患者・家族サポートセンター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



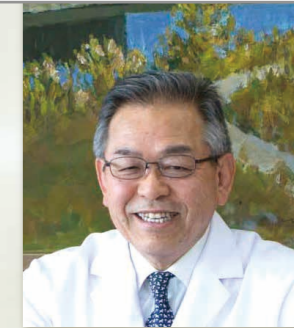
CONTENTS

- ・退任のご挨拶
- ・佐田中学校からベンチを贈呈いただきました
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

退任のご挨拶

医学部附属病院長

いがわ みきお
井川 幹夫



これまで地域の医療機関の皆様には大変お世話になっていましたが、今年度末に医学部附属病院長、国立大学法人島根大学理事（医療・附属病院担当）を任期満了により退任いたします。これまで皆様から賜りましたご指導・ご支援に心より感謝申し上げます。2012年4月に小林祥泰先生の後任として病院長に就任し、開院以来の理念である「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を掲げ、患者さんの視点に立った医療の提供、安全・安心で満足度の高い医療の実践、人間性豊かで優れた医療人の育成と派遣、地域とのネットワークを重視した医療の展開、地域社会に還元できる臨床研究の推進などを基本方針として、病院運営を行ってまいりました。以下、9年間に亘り担当しました病院運営の概要を述べさせていただきます。

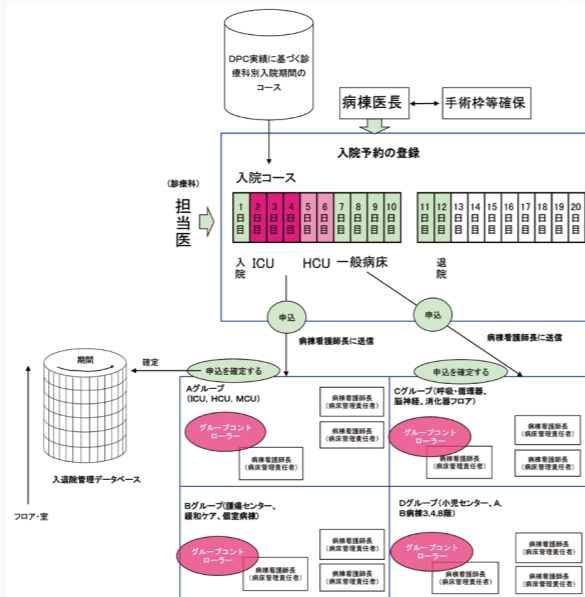
診療体制では、救命救急センターの設置、高度急性期医療の更なる推進を目指して、本格的な小児心臓外科手術、ロボット手術支援システム「ダ・ヴィンチ」の適応拡大に取り組むとともに、厚生労働省による充実度評価では山陰唯一のS評価を受けている救命救急センターは、救急医療の量的・質的向上を達成しています。さらに全国の大学に先駆けて設置した Acute Care Surgery 講座（高度外傷センター）が、ハイブリッド手術室を備えた高度外傷センター棟で全県を対象とした外傷救急医療を実践する体制を整備いたしました。また、脳卒中・循環器病対策基本法の成立を受けて、高度脳卒中センターを立ち上げ、周産期医療については、総合周産期母子医療センターへの移行準備、先端がん治療センターを中心に、がんゲノム医療、外来化学療法を推進する体制を整備し、新たに設置した難病総合治療センター、IBDセンター、アレルギーセンター、総合ハートセンター、ロボット支援手術推進センターも順調に稼働しています。病院運営については病床の効率的な運用を図るため、病院再開発時（写真1）に新たに構築した入退院管理システム（図）を運用して国立大学病院でトップクラスの病床稼働率を維持し、再開発に伴う繰越欠損金を計画より早く解消することができました。

写真1 病院再開発記念式典



2019年10月には開院40周年を迎え、多くの皆様にご出席いただき、職員一同が次の50周年に向けて決意を新たにいたしました（写真2）。この一年間は、他の医療機関と同様に新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れ、重点医療機関として重症者の治療を担い、県、医療機関からPCR検査、抗原定量検査を受託するなど島根県の感染対策を支援するとともに、無症状の希望者には自費検査を提供するなど地域に密着したコロナ対策を実施できたものと認識しております。今年度は、コロナ禍により病院経営にマイナスの影響が懸念される中、プラスの収支が見込めるレベルまで何とか持ちこたえています。病院敷地内に入院児童等患者

図 ベッドコントロールチャート



家族宿泊施設「だんだんハウス」を設置し、外来患者さんは3ヶ月に1回、入院患者さんは退院時に満足度調査を実施しており、毎月の集計結果に基づいて「患者満足度向上WG」で対応策を検討するとともに、一般市民、患者団体の代表、有識者を委員とした「患者さんの視点に立った医療を考える会」を定期開催し、いただいた提言・意見を患者サービスの向上に役立てています。診療機能の強化と患者さん中心の医療を職員とともに実行することにより、附属病院を名実ともに島根県の中核病院と評価されるポジションに引き上げることができたと考えています。

関連医療機関への医師派遣機能の活性化と透明性を確保するため設置した島根大学医学部附属病院医師派遣検討委員会を中心として、国の定める「医師偏在指標」に基づいて策定する「医師確保計画」に沿った医師派遣、地域卒等出身医師にあつては義務履行に配慮した医師派遣を実施し、さらにクロスアポイントメント制度を活用して関連病院に医師を派遣しやすい体制を構築しました。医師派遣等、地域医療の推進が評価され、昨年11月に県知事表彰を受けています。

高度医療の提供、地域医療の最後の砦機能の維持・推進、救急医療の充実、災害医療への対応、臨床研究の推進、優れた医療人の養成、附属病院医師派遣検討委員会の活動、働きやすい職場環境と強固な経営基盤を確立し、地域の大学病院として県民に一層信頼される病院運営が期待されています。次年度から椎名新病院長が引き継ぎますので、関係各位のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、9年の長きにわたり、ご指導・ご鞭撻賜りました皆様方に、改めて深く感謝の意を表しまして、退任のご挨拶とさせていただきます。

誠に有難うございました。

写真2 開院40周年記念パーティー





ご報告



ご報告



うさぎ保育所の節分会について

総務課

2月3日(水)毎年恒例の節分会を行いました。今年は124年ぶりに2月2日が節分ということもあり、前日にお家で豆まきをしたご家庭も多くありました。今年の節分会ではいつもと違った「みんなの心の中にいる鬼を退治しよう!」ということで泣き虫・いじわる・おこりんぼう・好き嫌いをする鬼を退治することにしました。各クラスの子ども達が自分で製作した鬼のお面をつけて集まり、最初に節分の由来やどうしたら鬼を退治することができるのかを劇を通して知りました。

鬼はイワシの臭いが嫌い! 柊の葉っぱはチクチク刺さるので鬼が寄ってこない! 豆は魔物を倒すことができる! ということで、イワシ・柊・豆の3枚の絵をお守りに気合十分の子ども達。大きいクラスの子ども達は、自分の心の中にどんな鬼が潜んでいるのかを考えて豆まき開始。みんなそれぞれ思い当たる4枚の鬼のパネルめがけて、勢いよく「おにはそと」「ふくはうち」と豆をまき、子ども達の元気の良いかけ声が保育所中に響き渡りました。鬼のパネルが倒れるとみんな大喜び!! 次々にパネルを倒していきました。頑張っ鬼を退治することができ、一人ずつ褒美シールももらいました。小さいクラスでもチビ鬼ちゃんのパネルにボールを投げて悪い鬼を退治しました。

みんなそれぞれ心の中にいる鬼を退治することができてスッキリとした気持ちになりました。自分で作った鬼のお面はみんなのお気に入りのようで、お面をつけてお家に帰る姿もありました。みんな由来や意味を考えながらの楽しい節分会となりました。



総合周産期母子医療センター NICU・GCUの改修工事完成について

会計課施設管理室

当院では2021年4月からの総合周産期母子医療センター稼働に伴い、2020年10月よりNICU・GCUの改修工事を開始し、今年の2月末に完成の運びとなりました。

今回の整備では、これまでのNICU・GCUに比べ、関連諸室を含めた全体面積を270㎡から320㎡へと約1.2倍となる拡張を行い、NICU 12床、GCU 6床の整備を行いました。

改修計画にあたっては病院スタッフの意見に基づき、より安全で効率的に診療できるよう配慮し、患者さんのご家族に少しでも柔らかな雰囲気を感じてもらえるように、木目調の内装や家具、間接照明等を取り入れました。

また、NICU・GCUに面した廊下部分の壁においては、当院小児科の「一人の子どものために、今できることを。そして将来の幸せのために。」という志にご賛同頂いたクラウドファンディングによる資金を用いて、本学総合理工学部の学生がデザインした壁紙を貼るなど、新しい試みにも挑戦しました。

コロナ禍における病院内での工事ということで様々な不安もありましたが、関係者のご尽力のおかげで、無事に工事を完成することができました。

工事中の診療制限にご協力頂きました患者さんやご家族、クラウドファンディングに賛同して頂いた全国の方々、整備工事に携わって頂きました各業者の方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

今回の整備工事が、島根県内における高度化する周産期医療の維持・発展や、子どもたちの将来の幸せの一助となれば幸いです。

なお、完成したNICU・GCUにつきましては、4月号で紹介します。





島大病院ニュース 2021年3月

ご報告

寄附型 #島根県 #社会にいいこと #子ども・教育 #医療・福祉 #寄附型

少しでも不安を取り除ける空間を | 周産期センターのリニューアルへ

島根大学医学部小児科 竹谷健



一人の子どものために、
今できることを。
そして将来の幸せのために。
島根大学医学部附属病院

寄附総額
12,460,000円 目標金額 3,300,000円

寄附者 募集終了日
582人 2021年1月29日

プロジェクトは成立しました!

シェア ツイート LINEで送る

御礼 赤ちゃんのご家族の笑顔と安心の 空間作りのクラウドファンディング

小児科 教授 診療科長 たけたに たけし
竹谷 健

島根大学医学部附属病院が総合周産期母子医療センターのリニューアルに際して、昨年12月14日から開始したクラウドファンディングが皆さまのおかげで無事に終了することができました。支援していただきました皆さまに、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

開始当初は本当に支援が集まるのか不安でしたが、院内外からのご協力により、582人の方々から当初の目標を大きく上回る1,246万円のご寄付を頂いたこと、皆さまに深く御礼申し上げます。

特に、江草さんを中心としたリハビリテーション部の皆さんが全国の理学療法士の皆さんへ、SNSや研修会で周知していただいたことにより、島根県外からも多くのご寄付をいただきました。

ご支援いただきました思いを力に変えて、これから、赤ちゃんのご家族のために誠心誠意取り組んで参ります。今後とも何卒ご指導ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



島大病院ニュース 2021年3月

お知らせ



ツーピース方式 ブルー



ツーピース方式 ベージュ



ガウン方式 グリーン



ガウン方式 ベージュ

着心地がよい新しい「病衣」で快適な入院生活を

会計課

本年4月から、「病衣」が新しくなります。

現在、入院患者さんにご利用いただいている病衣は、2016年4月から導入しており、しわになりにくい素材を選んでおりましたが、5年を経過し、ほつれなどの劣化も目立ってきたところでした。また、利用された方から、「生地の劣化」、「襟のしわ」、「ゴムのゆるみ」などのご意見を受けて、病院長を含めて病院内で検討を重ねた結果、今回の変更となりました。

ツーピース方式は、小さな格子柄のニット素材を使用し、よりしわになりにくく、しなやかさと柔らかさが特徴となっており、色はブルーとベージュから選択できます。

また、ガウン方式は、コットンを配合した現在と同じ素材ですが、色をブルーからグリーンに変更し、グリーンとベージュから選択できるようになっています。

入院患者さんに新しい病衣の着心地を感じていただければ幸いです。



2021年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2021年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



職員を対象とした新型コロナウイルス検査について

COVID-19検査センター センター長 准教授 やの しょうぞう 矢野 彰三

わが国においても新型コロナウイルス（以下、COVID-19という）に対するワクチンの接種が始まりましたが、COVID-19感染症は、今後も長期にわたり監視し、予防していく必要があると考えられます。当院では、院内感染を防止するため、すべての入院患者さんに対してCOVID-19検査を行ってまいりました。また、病院実習前のすべての学生、感染注意地域（*）に出張後の職員等に対しても検査を行っております。しかしながら、島根県においても感染経路不明患者の割合が増加しており、いわゆる市中感染が職員において発生する危険を考慮して、職員に対する定期的なCOVID-19検査を始めます。



外来棟1階ライトコート(中庭)に設置した唾液採取ブース

検査対象は、当院職員のうち感染者と濃厚接触のない無症状の者とし（**）、抗原定量検査を2週間に1度程度の頻度で行います。当院で実施している職員の定期健診のカルテシステムを利用してオーダーリングを行い、自費検査のために設置したブースを活用して唾液採取を行います（写真）。

当院が安全な病院であり続け、皆さまに安心して診療を受けていただけるよう、私どもも努力してまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

（*）島根大学独自の基準により毎週決定される。具体的には、各都道府県の直近1週間の新規感染者数が人口10万人あたり5人以上に該当し、かつ感染経路不明割合50%以上の地域、および新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき内閣総理大臣が発する『緊急事態宣言』の対象地域となった都道府県を指す。

（**）発熱、咳、倦怠感、嗅覚異常などの症状のある者および希望しない者を除く。



ご報告



島大病院における職員満足度向上への取り組み

総務課労務管理担当

当院では、より質の高い医療を提供する職場環境を整備することを目的として、業務に従事する職員を対象にした職員満足度アンケート調査を年に2回実施し、継続的な改善活動を行っています。2020年11月に実施したアンケート調査では、対象者1,765名に対して1,110名からの回答（回答率62.9%）を得ました。職員満足度の全職員の平均点（100点満点）は61.9点でした。主な職種別では、教育職員（臨床系）68.7点、医員・研修医63.0点、看護職員59.6点、薬剤師64.5点、臨床検査技師48.2点、診療放射線技師66.8点、理学療法士79.4点、臨床工学技士69.0点、一般職員（事務系・技術系）65.5点でした。

当院では、さらなる職員満足度の向上を図るために、アンケート調査の自由記載をもとにパレート図を用いて現状分析を行いました（図）。この結果より、上位の不満項目に対しては、以下のような改善を行いました。

①仕事量・人員不足に関する取り組み

- ・医療サービス課のスタッフを増員
- ・眼科に所属する視能訓練士の体制確立と人材確保のため、視能訓練部を新設して組織化
- ・救急救命士の処遇改善のための常勤化
- ・理学療法士増員計画の承認（2021年度～2023年度まで年度ごとに各2名ずつ増員）

②給与・手当に関する取り組み

- ・「新型コロナウイルス診療等従事手当」を新設
- ・医員との待遇差の是正及び処遇改善を目的とし、研修医に対しては臨床研修手当から独立させて救急勤務医手当等を支給し、夜間救急診療業務手当を増額

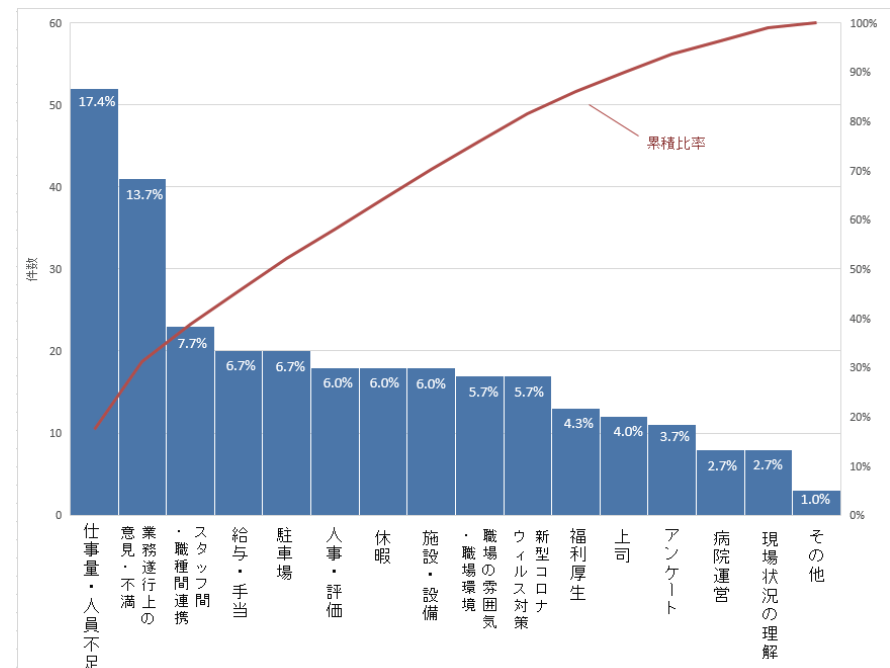
③施設等の整備

- ・女性用ロッカー室及び休憩室を整備・増設
- ・駐車場を増設し、碎石敷きの箇所をアスファルトに改修

なお、「駐車場に関する不満」に関しては、段階的な駐車場の拡充などによって、2016年5月実施時の21.1%（不満項目でトップ）から今回は6.7%に減少しました。継続的な満足度向上への取り組みによる成果の一つであると言えます。

今後も職員満足度アンケート調査を基に、職場環境の改善に取り組んでいく所存です。

図 自由記載(意見・不満)に関するパレート図

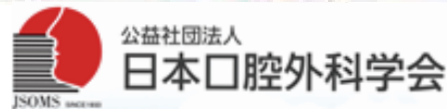


2020年11月実施





ご報告



【新型コロナウイルス感染症流行下における口腔外科手術に関する指針および実施する術前評価・手術診断アルゴリズム】より参照 <https://www.jsoms.or.jp/medical/3207/>

COVID-19感染拡大の現況下でのより安全な歯科口腔外科診療の提供に向けて

～(公社)日本口腔外科学会編 新型コロナウイルス感染症流行下における口腔外科手術に関する診療指針～

歯科口腔外科/口腔ケアセンター 教授 診療科長 かんの たかひろ 管野 貴浩

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が 2019 年 12 月に中国においてはじめて確認されてから瞬間に全世界に広がり、日常生活はもとより医療現場にも及んでいます。当院においては、特定機能病院としての地域医療提供に、院内各部署連携の重点強化と患者さん方にもご協力を頂きながら感染防止対策に努めております。

われわれ歯科口腔外科/口腔ケアセンターでは、日常診療において口腔内を中心に顎顔面周辺を診察、治療するため、原因ウイルスである SARS-CoV-2 を含む唾液や飛沫・エアロゾルに曝露される危険性が常に存在しています。これまでの各種調査から本邦での歯科口腔外科での手術や処置、周術期等口腔ケアでの医療従事者への感染報告例は確認されておりません。しかし、隣接関連する診療科の手術等における感染発生事例などを鑑み、われわれの所属する(公社)日本口腔外科学会では、口腔に関する診療従事者の感染予防ならびにウイルス曝露に対する十分な配慮と管理という観点から、現在までの学術データ・エビデンスを網羅的に検索解析し、下記の項目について“口腔外科手術を実施する際に参考にすべき指針と実施する術前評価・手術診断アルゴリズム”を医療従事者に向けて公開しました。

項目としては、①術前の準備、術前評価、手術実施判断、手術中装備、手術室環境を含み、②指針対象者は、歯科口腔外科に従事する開業医、総合病院勤務医、医学部・歯学部附属病院勤務医など、国内で口腔外科手術を実施するすべての歯科医師、医師であり、③対象手術としては、抜歯、顔面外傷、感染、腫瘍(口腔がんなど)、炎症、先天的・後天的形態異常(顎変形症)など、口腔外科が診療科として扱うすべての手術で、④麻酔の有無や種類は問わないとしています。

いまだ COVID-19 については、エビデンスが確立していない事項が多く、指針としての情報提供と提言ですが、当科ではこの指針に則り、関連各部署と綿密な連携の上で、より安全な歯科口腔外科治療と口腔ケア診療の提供に向けて努めてまいります。



ご報告



“母性内科”ってご存知ですか？

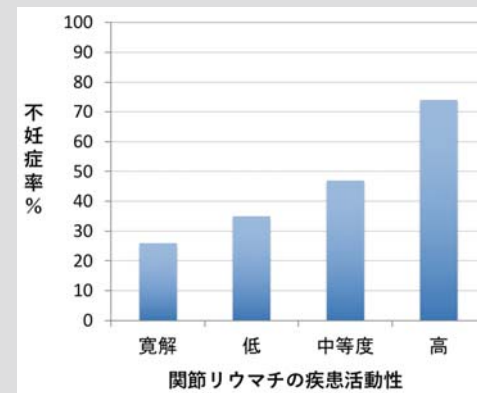
難病総合治療センター センター長 膠原病内科 教授 診療科長 むらかわ ようこ 村川 洋子

WoCBA (Women of Child -Bearing Age) という言葉が使われるようになっていますが、ご存知でしょうか？ 18～45歳の女性であり、妊娠する計画の有無に関係なく、妊娠・出産可能世代の女性全てを指す言葉で就学・仕事・結婚・子育て等、人生において重要なライフイベントが重なる世代のことを言います。若い世代の罹患率が多いリウマチ膠原病疾患や炎症性腸疾患領域では、女性の妊娠出産/授乳は重要な問題です。

以前は、妊娠を希望する患者さんには少量のステロイド薬やスルファサラジンのみで疾患をコントロールして妊娠を迎え出産し、もし産後それ以外の治療が必要な場合は、卒乳・断乳で授乳を諦めていただくことが多いようでした。今日、疾患と妊娠に関する様々な研究が進み、ステロイド薬は早産と関連すること、関節リウマチ(RA)は、一般に妊娠すると軽快することが多いですが、妊娠前に疾患活動性が高いと妊娠中も改善しないことが多い事、そして活動性が高いと妊娠もしにくいこと(図)や早産が多いことが分かりました。全身性エリテマトーデス(SLE)では、妊娠中、出産後に再燃が多く、母体の臓器障害や児の成長、そして両者の生命に関わりますのでより一層コントロールが重要です。今日では、登録調査や疫学調査で流産や催奇形性に関してリスクが殆どない薬が明らかになりそれらを使つての妊娠も許容されるようになりました(表)。

島根大学病院では膠原病内科をはじめとする内科と産科でカンファレンスを行うなど、妊娠前のケアも重視し、慢性疾患を有する患者さんのWoCBAとしてのケアも重視しています。膠原病患者さんが妊娠を考えていたら是非ご相談ください。

図 関節リウマチの疾患活動性と不妊症率 (妊娠計画から1年経過した時点の不妊症率)



Jenny Brouwer et al. Ann Rheum Dis 2015;74:1836-1841の成績より作図

表 リウマチ性疾患の薬の妊娠に対する留意点

妊娠に対する留意点	主なリウマチ性疾患の薬剤
妊娠中に許容される薬 (疾患によっては継続すべき薬)	ヒドロキシクロロキン、クロロキン、スルファサラジン、アザチオプリン、シクロスポリン、タクロリムス、コルヒチン
妊娠の一定時期に許容できる薬	ブレドニゾン (早産には影響) セルトリズマブベゴル
催奇形性のため禁忌*	アダリムマブ、インフリキシマブ (妊娠20週まで。必要なら妊娠を通じて可能) NSAIDs (COX非選択的) 妊娠28週まで
	メトトレキサート、ミコフェノール酸モフェチル、シクロホスファミド、ミノリピン

服用中の計画外妊娠の時も、即人工中絶でなく、催奇形性率が低いものもあるのでご相談ください





遺伝性乳がん卵巣がん症候群の保険適用について

乳腺・内分泌外科 診療科長 講師 いたくら まさゆき
板倉 正幸

島根大学医学部附属病院では従来より乳腺・内分泌外科、産婦人科、および臨床遺伝診療部が協力して遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (hereditary breast and ovarian cancer syndrome: HBOC) の診療に力を入れてきていましたが、2020年4月よりHBOCの診療の一部が保険適用となりました。

今回の保険収載では、現在または過去に乳がんまたは卵巣がんにかかった方 (既発症者／罹患者) を対象として、遺伝カウンセリングを行った上で下記のような診療が保険適用になります。

- ① 乳がんを発症された方で以下のいずれかに当てはまる場合の、HBOCの原因遺伝子であるBRCA1またはBRCA2 (BRCA1/2) 遺伝学的検査。
 - ・45歳以下で乳がんを発症された方
 - ・60歳以下でトリプルネガティブ乳がんを発症された方
 - ・2個以上の乳がんを発症された方
 - ・第3度近親者内に乳がんまたは卵巣がん発症された方が1名以上いる方
 - ・乳がんを発症された男性
 - ・卵巣がん、卵管がんおよび腹膜がんを発症された方
- ② 乳がんを発症された方のうちHBOCと診断された方に対して、卵巣・卵管の摘出 (リスク低減卵管卵巣摘出術: risk-reducing salpingo-oophorectomy: RRSO) およびがんを発症した乳房と反対側の乳房の切除 (リスク低減乳房切除術: risk-reducing mastectomy: RRM)。
- ③ 卵巣がん患者さんのうち、HBOCと診断された方に対する両側の乳房の切除 (両側リスク低減乳房切除術: bilateral risk-reducing mastectomy: BRRM)。
- ④ HBOCと診断された方に対するきめ細かなサーベイランス (定期的な観察と乳房MRI、乳房超音波検査)。

なお、乳がんまたは卵巣がんにかかっていない方 (未発症者) は現時点で保険適用となっておりませんが、ご相談に応じています。

